

再発・難治多発性骨髄腫の症例情報把握調査

調査背景・目的

近年、多発性骨髄腫領域では再発・難治症例を対象とした新薬が多く上市され治療選択肢が多くなった一方で、臨床医はどのように治療レジメンを使い分けるかが重要となってくる。そこで本調査では、直近の症例を対象として2ndライン以降の治療を実施した症例データを収集する事とする。この症例データをもとに、治療レジメン別に医師がどのような患者タイプにそれぞれ処方しているかを分析するとともに、各治療レジメンの傾向差を確認することを目的とする。

2ndライン治療：TOPIC

➤ 【Rdレジメン vs VRdレジメン の患者タイプの違いは？】

腎機能が正常値に近い“CCr:60mL/min以上”の患者がRdでは33%に対し、VRdでは67%とその差が大きかった。また病態では、Rdではフレイル/ノンフレイルの患者割合がおおよそ半々であったが、VRdではノンフレイル患者が70%と多かった。“V”が上乗せされやすい症例は、腎機能が落ちておらず且つノンフレイルであるという傾向があった。

➤ 【イキサゾミブは忍容性重視、カルフィルゾミブは積極的治療が可能な患者に処方】

IRdレジメンはKRdレジメンと比較すると、60歳代以下の若年層への使用が少なく、75歳以上の高齢層への使用が多い。また、KRdレジメンではノンフレイルの患者に使用される傾向がより強い。1stラインからの繋がりでは、IRdは1stラインのRdに“I”が上乗せされるケースが多く、KRdは1stラインのVRdからKRdにスイッチされた症例が多かった。

調査で確認した症例情報

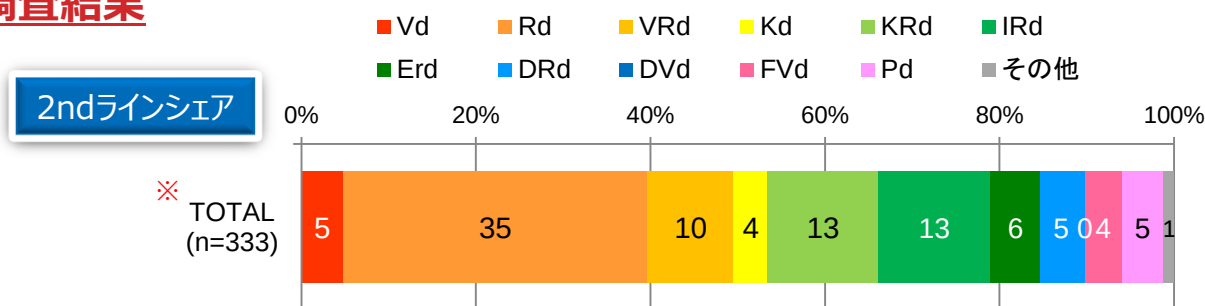
年齢	性別
移植状況	*病態
*腎機能	*PS
*好中球数	*血小板数
1stライン治療レジメン	

*2ndライン開始時の状態

調査概要

手法：インターネット調査（全国）症例情報は直近の最大3症例(再発・難治多発性骨髄腫)を確認
対象：100床以上の施設に勤務している血液内科、腫瘍内科の医師
<有効回答数> 医師数：185s <有効症例数> 1st:515例、2nd:515例、3rd:182例、4th:46例
調査期間：2018年10月16日～10月23日

調査結果



※調査で回収した2ndラインの症例数は全515症例であるが、これには現在は3rdライン以降の治療に移行している患者も含まれている。各種の症例情報は最新の治療ライン開始時点のものを聴取しているため、この資料では、“現在も2ndライン治療”を実施中であり、2ndライン開始時の患者情報が確認できる333症例のデータに限定して掲載している。

Rd vs VRd

以下一部データを抜粋して掲載

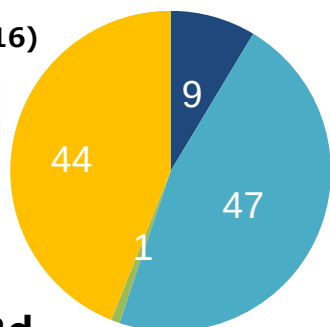
腎機能



■ [フレイル/Aggressive] ■ [フレイル/Non-Aggressive] ■ [ノンフレイル/Aggressive] ■ [ノンフレイル/Non-Aggressive]

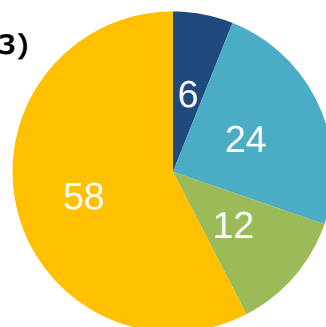
病態

Rd(n=116)



フレイル計	55
ノンフレイル計	45

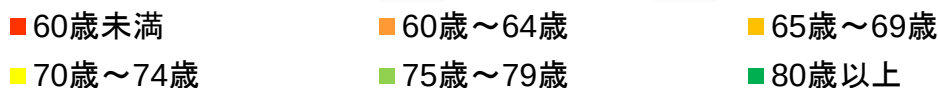
VRd(n=33)



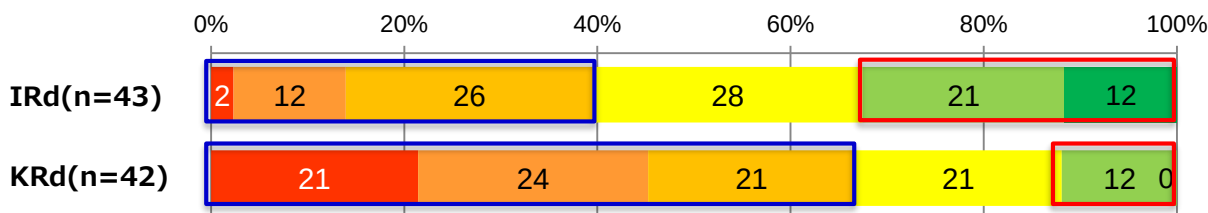
フレイル計	30
ノンフレイル計	70

IRd vs KRd

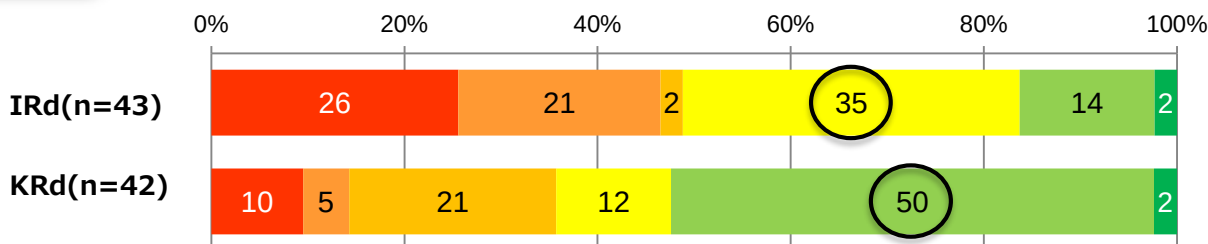
年代構成比



⇒60歳代以下 ⇒75歳以上



1stライン治療



※上記以外にも、[Doublet vs Triplet]、[Lenalidomideベース vs Bortezomibベース]などのバリエーションでも分析を実施し両群の傾向差を確認しています。

本調査に関する
お問い合わせ

株式会社アンテリオ www.anterio.co.jp

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階 電話：03-5294-8393（会社代表）

オンコロジー領域のことなら

ファーマ・ソリューション事業部 オンコロジー領域専門グループ
メール：ant-onc@anterio.co.jp